

新緑に笑顔も映える(相模湖公園)



恒例の「ウォーキング・ラリー」が梅雨に入る直前の6月3日(日)に開催された。ことしで8回目だが、雨による延期で1週間延ばしで行われたのは今回が初めて。この日は、天気の様子が前週の雨を詫言っているかのような絶好のハイキング日和となったが、さすがに延期がたたってスタート地点の相模湖公園に集まった人は150人だった。

スタートを待つ間、辺りを見回すと、なにやら妙なかつこうをした集団がいる。着物や軍服を着た人、ぬいぐるみを着た人、王子様に扮した人、女装をした人——聞くと彼らは棒術部員で、毎年この日は扮装して歩くのが恒例だそうだ。さぞ歩きにくかるうに……。

9時半、いよいよスタート！日差しは強く、完全に初夏の陽気だった。とはいえ城山の入口までの道端

# 爽やか32キ

「一期一会」を感じつつ

## 自然を丸かじり

には、まだ春が残っていた。田んぼのオタマジャクシ、さまざまな草花が私たちの目を楽しませてくれる。それは「この先、辛い山道を頑張つてね」と私たちを励ましてくれているようだった。城山の登り坂に取りついたら、竹の葉で足がツルツル滑ったが、その先はもつと厄介だった。しばらくすると息が上がってきて、しゃべる気も失せる。

いったん休んでしまうと、次の一歩がおつくうになるから右、左、右左と号令を掛けながら歩を進める。頂上まであと500mの地点で大きく深呼吸。スタート地点を見下ろすと、余り距離を稼いでいないことがわかってシヨックを受ける。とにかく先を急ぐ。すれ違う人も増えてきて挨拶を交わす。

「苦労さま」「お疲れさま」——街中ですれ違う人たちと、あいさつ

学生記者  
( 柿元 理榮  
 竹平 道郎 )

を交わすのはまれだ。しかし、ここ  
ではたとえ一瞬の触れ合いでも、お  
互いにそれを大事にしようという気  
持ちははたらく。きつと山の自然が  
そうさせるのだろう。「一期一会」。  
そんな言葉が頭をよぎった。

ようやく頂上に着いた。木陰でた  
くさんの人が休んでいる。お腹もペ  
コペコ、さつそく昼食をとったが格  
別においしい。ペットボトルの水さ  
え別の飲み物に感じられた。下り道  
は広く穏やかで、新緑をのんびり満  
喫できるコースNo1のポイントであ  
る。ほどなく次の高尾山頂に。ここ  
は反対側から登ってきたハイカーで  
埋め尽くされた状態だ。みやげ物屋  
のお姉さんの大きな掛け声が青空に  
跳ね返るように響く。

有名な「**蝟杉**」を過ぎたところで、  
バイオリンを弾く男性がいた。周り  
には伴奏に合わせて、気持ち良さそ  
うに歌う中年の集団もいる。美空ひ  
ばりの曲ばかり。思わず釣られて口  
ずさむ一般のハイカーたち。自然の  
なかで聴く美しいメロデーは、な  
んてすがすがしい気分なんだろう。  
長い山道の終わりを示す第1チェツ  
クポイントが見えてきた。



① 恒例の棒術部員の仮装  
② 自然の下で、きれいな調べ  
③ ゴールしたものの、  
ベテ下でグツタリ

## ゴールの とたんの 疲労感 は達成感に

山の次は川であった。浅川沿いの  
道は平坦ではあるが、決して楽では  
ない。仲間との会話が、わずかに疲  
れた気分を紛らせてくれる。河川敷  
ではウォーキング・ラリーに合わせ  
てフリーマーケットが行われていた。  
そして第2チェックポイント。学生  
課の方が私たちを優しく励ましてく  
れた。感謝、感謝。  
なんとか野猿街道に出る。しかし、  
溜まった疲れに加え、硬い地面に苦

しむ。隣の車道を大型の車がビュン  
ビュン飛ばす。まさに「忍の道」だ。  
「頑張れよ」と声を掛け合いながら  
中大を目指す。夕暮れが迫ってくる。  
ピンク色に染まった飛行機雲が浮か  
んでいる。終わりのない道に思えた  
野猿街道も、やがて中大の入口に。  
白い校舎が見えた！  
足取りが早まり、正門前の坂道を  
登る。大きく「ゴール」と書かれた  
横断幕をめぐけて、思わず駆け出す

者も。  
ついにゴールイン！すると不思  
議。あれほど辛かった体が、たちま  
ち心地よい疲労感に変わった。そし  
て何より大きな達成感が私たちを満  
たしてくれた。  
参加者それぞれは貴重な思い出に  
なったことは間違いない。大地を踏  
みしめ、32<sup>km</sup>を自らの足で歩き切る。  
そんな体験を1人でも多くの仲間と  
共有したいというのが本音だった。